

北区民まちづくり会議 福祉・中山間地域の分野に係る部会 摘録

日 時：平成26年11月14日（金）午後6時30分から8時まで

場 所：北区役所第4会議室

【主な発言】

○部会長

この部会は北区基本計画第3章の7「地域ぐるみで支え合う子育て環境の創造」、8「健康で安心して住み続けられるまちの創造」、10「自然と調和した住み良い北山三学区の創造」について話し合う場である。

委員が関係している活動等についてお伺いし、話し合っていきたい。

○委員

75歳以上の高齢者の居場所づくりとして、1ヶ月に2回は歌の練習とカフェを実施している。最高齢の方は95歳。今年で4年目の活動になる。これまで一人もお亡くなりになった方がいなかったが、80歳の方が今年の夏場に体調を崩され始めてお亡くなりになった。

私どもの取組の一番の特徴は多くの学生が活動に入っていること。先ほどお話しした方の葬儀にも多くの学生が参加し、遺族の方は「おばあちゃんの見送りにこんなに多くの若い人が来てくれるなんて思ってもみなかった」とおっしゃっていた。

カフェ事業はそれぞれが工夫をして実施するべきと考えている。この前も紫野学区の活動について外部から尋ねられることがあるが、こちらから話すことはあまりないと感じる。人に言われてやるものではなく、自発的に高齢者が「ここが私たちの居場所」と思ってもらえる場所を作ることが大切だと考えるからだ。

北区社会福祉協議会から紫野学区は子育てが遅れていると指摘があり、ここ4年間、子育てサロンを立ち上げる等、力を入れている。会館の向かいが民間の乳児保育所となっている。その子供たちと一緒に人形劇等の活動を行っている。子育てについては、取り組み始めるのが遅かったため、他の学区より遅れているとは思いますが、大分遅れを取り戻していると感じている。

お年寄りはこちらからの提案に対して積極的に乗ってくれる。ただ、不安なのがお年寄りの足腰の痛みである。足が悪い人は移動にタクシーが必要となるが、予算面でなかなか交通費を支出することができない。無料パスの利用を促しているが、バスでの移動が難しい方もおられる。指摘する人はいないが、同じ費用なのにバスとタクシーで移動手段が異なるのは、公平性に欠けるのではないかと感じることもある。しかし、できれば交通費を予算から支出できる特例等があればと思う。

○まちづくりアドバイザー

活動の拠点は紫野自治会館だと思うが、紫野は西から東まで東西に長い地区なので、自治会館まで移動してきてもらうのではなく、移動していくという形はとれないのか。

○委員

目的地によっては、十分に路線バスを利用できる。なので、できる限り公共交通機

関を利用してもらうようにしている。タクシーを利用せざる得ない方には会館に来てもらっている。

○まちづくりアドバイザー

高齢者への取組も子育て世代への取組も同じメンバーが行っているのか。

○委員

子育ては民生委員が中心。お年寄りには紫野カルチャー亭が中心。

紫野学区には船岡山公園がある。私が子供の頃は、船岡山公園が一番の遊び場だったが、事件等が発生し、子どもは山で遊んではいけないことになってしまった。公園の半分が建勲神社、半分は京都市が借りて公園として運用しているが、相当山が荒れている。全国から先生が来ているが、「ここの樹木は相当荒れている」と指摘された。府立大の先生が虫駆除装置を付けてくれたが、子どもが好きなカブトムシ等までも駆除してしまうのは残念に思う。

私の一番の想いは、これから学生とどのように付き合っていくかということ。単に呼びかけても参加してくれる学生は少ない。単位の取得や魅力的な場所という付加価値が必要になる。アメ（誘因）も出す必要があり、単位に関してはゼミの先生との付き合いを大切にしている。この間の紫野祭には、立命館大学からは乾ゼミの生徒が10名程度、佛教大学からは紫野キッズという学生団体に参加してもらっている。

この前は伊勢の松坂の方が見学に来られたが、紫野学区の活動を見学に来た方は「学生とお年寄りで年齢が離れているのに、なぜこんなににぎわっているのか」と驚く。

○部会長

ここ数年間でどんどん発展してる。当初は「学生の名前を何て呼べばいいのか」と悩んでおられた。

○委員

名前は愛称で呼び合うようにしている。「今日は〇〇さん来てないね」という会話からお互いが見守り合う体制ができていると思う。みんながなんでも話し合う雰囲気になっている。

○部会長

北区はそれぞれの学区が独自の取組を行っているが、他の区と比べて、学生と共に取り組んでいる学区が多い。学生にとっても府外から来て下宿している中で、京都の地元の方と関われるのは有難い話だと思う。

○委員

4年間も京都にいたのに京都の風習等に触れる機会が無いのは不幸だと思う。なにも知らない方が地藏盆に参加しても、地藏盆ではお地藏さんへの供え物を持参する等、作法を知らないといけない。時期によっては学生が地元に戻ってしまうため参加が難しい行事もあるが。

○部会長

地域と学生のつながり方は win-win の関係、つまり、学生にとっても楽しいし、学べる、地域にとっても活気付く、というお互いにメリットのある関係でないと健全

な関わり合いはできないと考える。学生を使い捨てるという発想はいけない。

ワンルームに住むのが今の学生の主流なので、昔のような下宿のおばちゃんによる地域の情報提供（「今週末学区の運動会があるよ」等）がない。

○委員

学生を学区の行事に参加させるなら、少なくとも町内会費を払ってもらわないといけないと思う。払ってもらえれば、町内の行事は必ずお知らせするようにしている。「紫野が第二のふるさとになった」という学生もいた。中には一度参加して、その後来ない学生もいたが、それはそれでかまわない。紫野学区には男子学生がよく参加してくれる。1回生から来てくれると長く付き合ってもらえるのでありがたい。

立命館大学の乾先生が地域と学生の交流イベントを開いたが、地域の人ばかりで学生はほとんどいなかった。これが今の現実だと思う。地域のことだけでなく、学生にもメリットのある構造を作らないとうまくはいかない。

○部会長

他の委員はいかがか。

○委員

おっしゃったように、地域内のコミュニケーションが大切と考える。私どもの学区は大谷大学が近い。時にはいたずら等悪いこともされたが昔の学生は大学の周辺地域をうろうろしていた。しかし、今の学生は大学の外に出てこない。

実習の対象として、福祉の事業に関わっていただいている。本当によくやっただいていると思う。高齢者とも上手にコミュニケーションをとっている。しかし実習意外の地域の行事となると、試験や長期休暇と重なる等の理由で参加することは少ない。地域から「運動会に来てや」と呼びかけてもだれも参加してくれない。大学の中で、食堂等全て揃っているため、学外の外に出る時は通学の時だけ。私の孫も学生だが、地域の方と一緒に楽しもうという発想はないように感じる。「どうしたら地域に住んでいる若い力を地域とつなげるか」を学生に限定せず考える必要があるのかもしれない。小学生には将来的に地域につながってもらえたらとの思いで、各学年で地域の行事に関わる取組を行っている。しかし、地域から呼びかけても子どもは参加してくれない。

○委員

確かにそう。保護者が参加しない。

○委員

大谷大学から様々な催し物を案内してもらっているが、参加するのはお年寄りばかり。若い世代は参加しない。

北区社会福祉協議会の取組として福祉教育を行っている。小学生はよくしてくれる。でも、大学生になるとダメ。単位取得が目的でないと大学生は参加しない。

○委員

これは大きな問題だと考える。本来の趣旨と離れているし、少子高齢化の問題にも大きく関わっていると思う。「一人でもいいので紫野に住んでくれ」と学生に言っても、残る学生はまずいない。

○委員

大谷大学が行った地域との懇談会には、地域の人々の参加が少なかった。また、学生の活力も下がっているのではないかと感じる。

○部会長

私も同じことを感じている。学生は「駅」と「大学」しか知らない。地域の美味しい洋食屋や飲み屋といった情報を全く知らない。点と点の移動だけで、面の移動がない。たまに地域との関わりが面白いと言って、卒論そっちのけで地域の活動に参加する学生もいるが。

○委員

地域ボランティアといった役務的なものではなく、単にふらっと来てもらえるような取組を大学はできないのだろうか。昔は学生課が窓口となってくれていた。今は窓口の反応もあまりよくない。

地域から大学に話を持っていくときの窓口を大学側は明示してほしい。

○部会長

職員も世代交代しているので、仕掛けが必要かもしれない。

○委員

一方的な発想ではいけない。単位でしか学生を釣れないという話が出ているが、学生もそこに暮らしている住民のひとり。その地域に入り、満たされる何かがないといけな。他の地方の人に、佛教大学は金閣寺のそばにあると言っただけでどよめく。それほど立地として北区は素晴らしい場所。北区で4年間過ごす上で、学生が生活者として魅力を感じる仕組みが何かできればと思う。例えば、入学式の時に、全学生に地域との関わりを伝える広報物を配ったり、京都市から学生にレクチャーするなど。

「地域に学ぶ、地域で学ぶ」という理念を社会学部で明確に打ち立て、公共政策学科を立ち上げた。文科省から「公共政策学科は法学部の学科ではないか」と指摘されたが、私はそれは違うと考える。地域に密着した公共政策をするにあたり、大学内でそれを支える部門が必要である。佛教大学では社会連携課が地域の窓口となっている。

行政にも大学にも地域の窓口を作る必要がある。単位に関わらず、学生が自主的にサークルを作り、田を耕し米を作り、酒を作るという活動を行っている学生もいる。これらの活動を通じて学生も達成感があり、地域も潤う。

アンケートを見ると北山三学区に対する認識が少ない。京都の水は北部の山々から来ているという認識が少ない。滋賀では水源に対する認識が浸透している。

○部会長

今の話は6「大学の力が生かされるまちの創造」と関わっている。北区基本計画は縦割りの作り方をしているように感じる。複数の分野をつなげる発想が必要ではないか。基本計画の組み立ての仕方を再度考える必要があると思う。進め方については構造的な考え方が必要ではないだろうか。

○部会長

他の委員はいかがか。

○委員

私どもの活動は小さい子どもやお母さん方を対象としている。待機児童を意識しながら各園が多目に受け入れている。北区は子育てに関しては良いまちではないかと感じている。少子化を感じないくらい、私の園でも保護者が多くの子どもを出産している。現在問題となっている虐待については、保育園単独では掘り起こすだけの力がないため、民生委員の方のお力を借りて対応するしかない。

学生については、佛教大学から多くの学生が実習に来ている。良い学生が多い。単位取得に関わらず、積極的に夏休み期間中に参加してもいいか、訪ねてくる学生も多々いる。残念ながら卒業後は地元に戻る方が多いが、学生と接していて、学生は祭好きということを感じる。取り込むのではなく、祭に「参加」してもらえたらと思う。学内の祭だけでなく、北区では学外の祭に参加することも非常に楽しいということを経験者に伝えることができると考える。

○副区長

先ほど部会長から縦割りに流されている感があるという指摘があった。たしかに、行政は縦割りになってしまう傾向がある。地域の居場所づくりに関しても各々担当課が助成金をつけて「高齢者」「子育て」等縦割りでメニュー作りをしていることが多い。しかし、私が最近参加したカフェ事業は児童館で実施しているため、高齢者の来客者が多く、子育て中の母親と子どももよく利用している。今はまだないが、その中で交流がうまればと思う。まちづくりや地域づくりについては、縦割りを無くしていかなければいけないと思う。運動会や地蔵盆等は子どもからお年寄りまで参加する行事であり、そこには昔から縦割りはないので、そういった横のつながりを生む取組を参考に考えていければと思う。

○委員

私の学区には40カ所お地蔵さんがおられるが、その内地蔵盆をしているのは18カ所だけ。紫明通りの南北で違いが大きい。

○委員

高齢化と地蔵など地図に落としたデータは見ると面白いかもしれない。

○委員

私は雲ヶ畑で活動している。他の地域は分からないが、雲ヶ畑は学生が地域に入り、林業体験や地域の祭に参加している。学生団体のため、先輩から後輩へと受け継がれており、継続性がある。1学年6~7人ぐらいコアメンバーとして参加してもらっている。勉強したい学生が林業に関わるといったことだけでなく、例えば軽音楽部の学生が地域の祭に参加するといったことができるといいと思う。

○委員

継続して続いているというのは良いモデルですね。

○委員

活動に関わった地元の方は、学生さんに住んでほしいと思っていると考える。

○委員

なかなか空き家を貸してくれる人は少ないのが現状である。

○委員

北区は市内で東山に次いで空き家が多いという統計データはあるが、北区内での学区別の空き家の統計データはあるのかな。例えば北山三学区など一部の学区の空き家率が極端に高いということはあるのだろうか。

○委員

紫野は東山に続いて2番目に空き家対策のモデル地区として指定されたが、ほとんど進展していない。今は京都市の補助を餌にして誘っているが、家屋の修繕は最低150万円かかる。学生には月5万円くらいでしか貸せないで、現在の補助金では活用が難しいというのが実情である。

○事務局

朽ちた家は空き家活用できるが、まだきれいな家は家財道具（仏壇等）が残っているため、なかなか貸してもらうことは難しいと聞く。

○委員

空き家を活用したゲストハウスを増やせたらいいなと思っている。他府県から観光客のグループに利用してもらえれば、地域も潤う。

○委員

だれが管理をするのか。

○委員

持ち主、大家が管理する。

○部会長

ゲストハウスは、これからの空き家活用のひとつのビジネスモデルになるのではと考える。有名な神社仏閣に近く、格安で泊まれるホテルは需要があるので。

地元にもお金が還元できると地域の活性化につながると思う。

○部会長（まとめ）

具体的に取り組みそうな意見も今回の会議で出たので、来年の会議では 並列化している北区基本計画の第3章について、各分野の相互関係を考え、全体を見据えたプログラムを提案する必要があると考える。例えば、水源の環境を考え、山の課題について考える取組等である。北山三学区の課題については、市街部に住む北区民も自分事として、意識するような仕掛けが必要である。

また、各学区の取組は深まっていると思うが、それぞれの学区の深まりの隙間を埋める横のつながりを作る提案ができればと思う。

○事務局

2月の会議に向けて意見を集約するので、意見やアイデア等があれば、お知らせいただきたい。

<以上>